

# 国際教養大学個人情報保護規程

平成 17 年 5 月 1 日  
理 事 長 決 定  
規 程 第 8 1 号

(趣旨)

第1条 この規程は、「秋田県個人情報保護条例」(平成12年10月17日秋田県条例第138号。以下「県条例」という。)及び「学校における生徒等に関する個人情報の適正な取扱いを確保するために事業者が講ずべき措置に関する指針」(平成16年11月11日文科科学省告示第161号。以下「国の指針」という。)に基づき、公立大学法人国際教養大学(以下「大学」という。)が保有する個人情報の適切な取扱いの確保に関し、必要な事項を定めるものである。

(定義)

第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 個人情報 個人に関する情報であつて、特定の個人が識別されるもの(他の情報と照合することができ、それにより特定の個人が識別され得るものを含む)をいう。
- (2) 学生等 個人情報から識別され、又は識別され得る個人であつて、大学において教育を受けている者あるいは教育を受けようとする者、又は過去において大学において教育を受けた者あるいは教育を受けようとした者をいう。
- (3) 遺族 大学が、死亡した学生等(以下「死者」という。)の個人情報を保有する場合において、次に掲げる者をいう。
  - イ 当該死者の父母及び兄弟姉妹
  - ロ イに掲げる者がいない場合にあつては、当該死者の配偶者及び子
  - ハ イ及びロに掲げる者がいない場合にあつては、当該死者の祖父母及び孫

(大学の責務)

第3条 大学は、個人情報の保護の重要性を認識し、大学の教職員又は教職員であつた者(以下「教職員等」という。)及び学生等の利益を侵害することのないよう、県条例及び国の指針の趣旨に留意し、個人情報の保護に関し必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

(個人情報を取り扱う事務の登録等)

第4条 大学は、個人情報を取り扱う事務について、次に掲げる事項を記載した個人情報取扱事務登録簿(様式第1号)を作成して大学事務局企画課に備え、一般の閲覧に供するものとする。

- (1) 個人情報を取り扱う事務の名称

- (2) 個人情報を取り扱う事務の目的
- (3) 個人情報を取り扱う事務を所管する部署の名称
- (4) 個人情報の対象者
- (5) 個人情報の記録項目
- (6) 個人情報の収集先
- (7) その他大学が定める事項

(収集の制限)

第5条 大学は、あらかじめ個人情報を取り扱う事務の目的を明確にし、当該目的を達成するために必要な範囲で、適法かつ公正な手段により個人情報を収集するものとする。

2 大学は、思想、信条又は信教に関する個人情報及び社会的差別の原因となるおそれのある個人情報を収集しないものとする。ただし、法令若しくは県条例の規定に基づくとき、又は当該個人情報を取り扱う事務の目的を達成するために収集することに相当の理由があると認められるときは、この限りでない。

3 大学は、個人情報を収集するときは、本人から収集するものとする。ただし、次の各号のいずれかに該当するときは、この限りでない。

(1) 本人の同意があるとき。

(2) 法令又は県条例の規定に基づくとき。

(3) 個人の生命、身体又は財産を保護するため、緊急かつやむを得ないと認められるとき。

(4) 出版、報道その他これらに類する行為により公にされているとき。

(5) 国又は地方公共団体の機関から収集する場合で、事務の遂行上やむを得ないと認められるとき。

(6) 前各号に掲げる場合のほか、本人から収集したのでは、個人情報を取り扱う事務の性質上その目的の達成に支障が生じ、又は円滑な実施を困難にするおそれがあるとき、その他本人以外のものから収集することに相当の理由があると認められるとき。

(適正管理)

第6条 大学は、その保有する個人情報の漏えい、滅失及びき損の防止その他の個人情報の適切な管理のために必要な措置（以下「安全保護の措置」という。）を講ずるよう努めるものとする。

2 前項の趣旨を大学において推進するため、事務局に個人情報保護管理者を置く。個人情報保護管理者は、理事長がこれを指名する。

3 個人情報保護管理者は、個人情報を取り扱う事務の目的を達成するために、必要な範囲で、その保有する個人情報を正確なものに保つよう指揮・管理するものとする。

4 大学は、保有する必要がなくなった個人情報については、確実に、かつ、速やかに

廃棄し、又は消去するものとする。

(利用及び提供の制限)

第7条 大学は、個人情報を取り扱う事務の目的以外の目的のために個人情報を大学内部（以下「学内」という。）において利用し、又は大学外部（以下「学外」という。）のものに提供しないものとする。ただし、次の各号のいずれかに該当するときは、この限りでない。

- (1) 本人の同意があるとき、又は本人に提供するとき。
- (2) 法令又は県条例の規定に基づくとき。
- (3) 個人の生命、身体又は財産を保護するため、緊急かつやむを得ないと認められるとき。
- (4) 出版、報道その他これらに類する行為により公にされているとき。
- (5) 学内において利用する場合又は国若しくは秋田県の機関に提供する場合で、事務の遂行上必要な限度において使用し、かつ、使用することに相当の理由があると認められるとき。
- (6) 前各号に掲げる場合のほか、公益上の必要その他相当の理由があると認められるとき。

2 大学は、前項ただし書きの規定により個人情報を利用し、又は提供するときは、個人の権利利益を不当に侵害することのないよう留意するものとする。

(オンライン結合による提供の制限)

第8条 大学は、公益上の必要があり、かつ、個人の権利利益を侵害するおそれがないと認められる場合でなければ、オンライン結合（通信回線を用いた電子計算機その他の情報機器の結合であって、学外のもので大学の保有する個人情報を随時入手し得る状態にあるものをいう。）により、個人情報を学外のものに提供しないものとする。

2 個人情報保護管理者は、学内のオンラインを利用した個人情報の取扱い（以下「情報システム」という。）において安全保護の措置を講ずるため、大学の教職員の中から当該個人情報の管理責任者を指名することができる。

3 前項の管理責任者は、学内の情報システムへの外部からの不正アクセスやコンピュータウィルスの感染防止等に必要な措置を講じなければならない。

(提供先に対する措置の要求)

第9条 大学は、学外のものに個人情報を提供する場合において、必要があると認めるときは、提供を受けるものに対して、当該個人情報の使用目的若しくは使用方法の制限その他必要な制限を付し、又は安全保護の措置を講ずることを求めるものとする。

(教職員等の義務)

第10条 大学の教職員等は、職務上知り得た個人情報をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に使用してはならない。

(委託に伴う措置)

第11条 大学は、個人情報を取り扱う事務の全部又は一部を学外のものに委託するときは、当該委託に係る契約において、委託を受けたものが講ずべき個人情報の保護のために必要な措置を明らかにするものとする。

(個人情報開示の開示)

第12条 大学は、その保有する個人情報について、当該個人情報の本人若しくは遺族又はこれらの法定代理人（以下「本人等」という。）から開示の申出があったときは、開示の申出に係る個人情報に次の各号に掲げる情報（以下「非開示情報」という。）のいずれかが含まれている場合を除き、開示の申出をした者に対し、当該個人情報を開示するものとする。

(1) 法令又は県条例の規定により開示することができないとされている情報。

(2) 個人の評価、指導、相談、選考、診断等（以下「個人の評価等」という。）に関する情報であって、開示することにより、個人の評価等に関する事務又は事業の適正な遂行に支障を及ぼすおそれのあるもの。

(3) 開示の申出に係る個人情報の本人以外の個人に関する個人情報であって、開示することにより、当該個人の権利利益を侵害するおそれのあるもの。

(4) 法人その他の団体（国、独立行政法人等（独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第59号）第2条第1項に規定する独立行政法人等をいう。以下同じ。）、地方公共団体及び地方独立行政法人（地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第2条第1項に規定する地方独立行政法人をいう。以下同じ。）を除く。以下「法人等」という。）に関する情報又は事業を営む個人の当該事業に関する情報であって、次に掲げるもの。

イ 開示することにより、当該法人等又は当該個人の権利、競争上の地位その他正当な利益を害するおそれがあるもの。

ロ 大学の要請を受けて、開示しないと条件で任意に提供されたものであって、法人等又は個人における通例として開示しないとされているものその他当該条件を付することが当該情報の性質、当時の状況等に照らして合理的であると認められるもの

ハ 大学又は国若しくは地方公共団体の機関、独立行政法人又は地方独立行政法人が行う事務又は事業に関する情報であって、開示することにより、当該事務又は事業の性質上、当該事務又は事業の適正な遂行に支障を及ぼすおそれのあるもの。

ニ 開示することにより、個人の生命、身体、財産等の保護その他公共の安全と秩序の維持に支障を及ぼすおそれのある情報。

ホ 遺族又はその法定代理人が開示の申出をした場合にあっては、当該開示の申出に係る個人情報の本人が生存していたとしたならば開示の申出をした者に知られたくないと望むことが正当であると認められる情報。

へ 法定代理人（遺族の法定代理人を除く。）が開示の申出をした場合にあっては、開示することにより、当該開示の申出に係る個人情報の本人である未成年者又は成年被後見人の権利利益を侵害するおそれのある情報。

2 大学は、前項の規定により開示の申出をしようとする者に対し、別に定める開示請求書（様式第2号の1、第2号の2）を提出させ、及び自己が当該開示の申出に係る個人情報の本人等であることを証明するために必要な書類で大学が定めるものを提出させ、又は提示させるものとする。

（部分開示）

第13条 大学は、開示の申出に係る個人情報に非開示情報が含まれている場合において、非開示情報に該当する部分とそれ以外の部分とを容易に分離することができるときは、当該非開示情報に該当する部分を除いて当該個人情報を開示するものとする。ただし、当該非開示情報に該当する部分を除いた部分に有意の情報が記録されていないときは、この限りでない。

2 開示請求に係る個人情報に前条第1項第3号に掲げる情報（開示の申出に係る個人情報の本人以外の特定の個人を識別することができるものに限る。）が含まれている場合において、当該情報のうち、氏名、生年月日その他の当該本人以外の特定の個人を識別することができることとなる記述等の部分を除くことにより、開示しても、当該本人以外の個人の権利利益が侵害されるおそれがないと認められるときは、当該部分を除いた部分は、同号に掲げる情報に含まれないものとみなして、前項の規定を適用する。

（開示の申出に対する措置）

第14条 大学は、開示の申出があったときは、当該開示の申出があった日から起算して15日以内に、当該開示の申出に係る個人情報を開示するかどうかの決定（以下「開示決定等」という。）をし、当該開示の申出をした者に対し、その内容を書面（様式第3号）により通知するものとする。ただし、やむを得ない理由により、当該期間内に開示決定等をする事ができない場合は、当該期間を延長することができる。

2 前項の場合において、大学は、個人情報の全部又は一部を開示しない旨の決定の通知をするときは、同項の書面（様式第4号、第5号）に、その理由を記載するものとする。

（個人情報の存否に関する情報）

第15条 開示の申出に対し、当該開示の申出に係る個人情報が存在しているか否かを答えるだけで、非開示情報を開示することとなるときは、大学は、当該個人情報の存否を明らかにしないで、当該開示の申出を拒否することができる（様式第6号）。

（第三者に対する意見照会）

第16条 開示の申出に係る個人情報に、開示の申し出に係る個人情報の本人以外のもの（以下「第三者」という。）に関する情報が含まれているときは、大学は、開示決

定等にあたって、当該情報に係る第三者に対し、当該情報の内容その他必要な事項を通知して、意見を聞くことができる（様式第7号）。

（個人情報の訂正）

第17条 大学は、第12条第1項の規定により開示を受けた個人情報の内容が事実でないとして、当該開示を受けた本人等から当該個人情報の訂正（追加及び削除を含む。以下同じ。）の申出があったときは、必要な調査を行い、当該訂正の申出に係る個人情報の内容が事実でないと認める場合は、これに応ずるものとする。

2 第12条第2項の規定は、訂正の申出に準用する（様式第8号の1、第8号の2）。

（訂正の申出に対する措置）

第18条 大学は、訂正の申出があったときは、当該訂正の申出があった日から起算して30日以内に、当該訂正の申出に係る個人情報を訂正するかどうかの決定（以下「訂正決定等」という。）をし、当該訂正の申出をした者に対し、その内容を書面（様式第9号）により通知するものとする。ただし、やむを得ない理由により、当該期間内に訂正決定等を行うことができない場合は、当該期間を延長することができる。

2 第14条第2項の規定は、個人情報の全部又は一部を訂正しない旨の決定の通知について準用する（様式第10号、第11号）。

（個人情報の利用の停止等）

第19条 大学は、大学の個人情報の取扱いが第5条から第9条まで及び第11条の規定に違反しているとして、当該取扱いに係る個人情報の本人等から当該個人情報の利用の停止（個人情報の利用の停止、消去、提供の停止その他の個人情報の取扱いに関する是正措置をいう。以下同じ。）の申出があったときは、必要な調査を行い、当該利用の停止等の申出に理由があると認める場合は、これに応ずるものとする。

2 第12条第2項の規定は、利用の停止等の申出に準用する（様式第12号の1、第12号の2）。

（利用の停止等の申出に対する措置）

第20条 大学は、利用の停止等の申出があったときは、当該利用の停止等の申出があった日から起算して30日以内に、当該利用の停止等の申出に係る個人情報の利用の停止等をするかどうかの決定（以下「利用停止決定等」という。）をし、当該利用の停止等の申出をした者に対し、その内容を書面（様式第13号）により通知するものとする。ただし、やむを得ない理由により、当該期間内に利用停止決定等を行うことができない場合は、当該期間を延長することができる。

2 第14条第2項の規定は、個人情報の全部又は一部の利用の停止等をしない旨の通知について準用する（様式第14号、第15号）。

（苦情の処理）

第21条 大学は、大学の個人情報の取扱いに関し苦情があったときは、迅速かつ適切に処理するよう努めるものとする。

2 前項の苦情処理の窓口は、事務局企画課に設けるものとする。

(特定個人情報についての特例)

第22条 第2条第3号、第7条第1項第2号から第6号まで及び第12条第1項第4号ホの規定は、大学が保有する特定個人情報（個人番号（行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律（平成25年法律第27号）第2条第5項に規定する個人番号をいう。）をその内容に含む個人情報をいう。以下同じ。）については、適用しない。

2 大学が保有する特定個人情報に関する次の表の上欄に掲げるこの規程の規定の適用については、これらの規定中同表の中欄に掲げる字句は、同表の下欄に掲げる字句とする。

第7条第1項本文	利用し、又は大学外部（以下「学外」という。）ものに提供しない	利用しない
第7条第1項ただし書き第1号	本人の同意があるとき、又は本人に提供する	人の生命、身体又は財産の保護のために必要がある場合であって、本人の同意があり、又は本人の同意を得ることが困難である
第7条第2項	利用し、又は提供する	利用する
第12条第1項	若しくは遺族又はこれらの法定代理人	又は代理人
第12条第1項第4号へ	法定代理人（遺族の法定代理人を除く。）	代理人
第12条第1項第4号へ	本人である未成年者又は成年被後見人	本人

(委任)

第23条 この規程に定めるもののほか、この規程の施行に関し必要な事項は、理事長が定める。

附 則

この規程は、平成17年5月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年9月6日から施行する。

附 則

この規程は、平成28年1月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成29年7月31日から施行する。

附 則

この規定は、平成30年4月2日から施行する。